

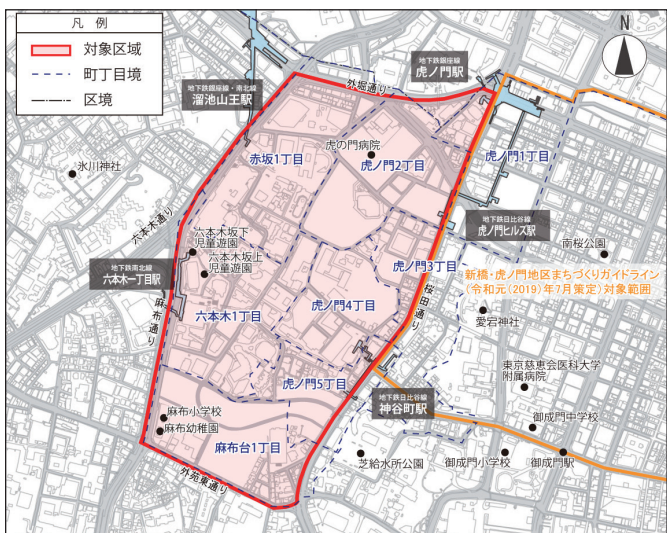
六本木・虎ノ門地区まちづくりガイドライン 概要版

区では、六本木・虎ノ門地区について、良好な市街地を保全するとともに、一体的かつ計画的にまちづくりを進めるため、まちの将来像やまちづくりの方針などを示す「六本木・虎ノ門地区まちづくりガイドライン」を平成24（2012）年12月に策定しました。策定後約10年が経過し、まちを取り巻く環境が大きく変化していることから、ガイドラインを改定しました。

第1章 はじめに（P1～4）

■対象区域

本地区は、外苑東通り、外堀通り、桜田通り、六本木通り、麻布通りに囲われた約75haの地区です。



第2章 まちの背景（P5～32）

■まちづくりの動向

- ガイドライン(平成24(2012)年12月)策定以降、都市計画を活用した複数の大規模開発が進展し、国際的な宿泊施設、オフィス、都市型住宅などの拠点的な機能が集積しています。
- 本地区では、大規模開発により道路や歩行者通路、広場、緑地などの基盤が整備され、まちの骨格が形成されています。

■まちの魅力（特性）

- 国際交流拠点として多様な都市機能が集積
- 豊富な景観資源・観光資源
- 治安が良く、安全性が高い
- 公共交通機関の充実、道路・歩行者ネットワークの整備の進展
- 緑豊かな空間の形成

■まちの課題

- 業務環境と住環境の共存の必要性
- 激甚化する災害への対応
- 脱炭素化への対応
- 道路ネットワーク、バリアフリーの一部未整備
- まちの魅力を高めるエリア全体としての取組の必要性
- 新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴うライフスタイルの変化への対応

第3章 まちの将来像（P33～36）

まちの将来像

『すべての人にやさしく、活力と魅力に満ちた、誰もが歩きたくなる緑豊かな国際生活交流都市』

目指すべきまちの姿

温室効果ガスの排出実質
ゼロの達成に向けた人に
やさしい緑あふれるまち

— ポイント —

脱炭素社会に向けた
歩行者中心のウォークラブルな
まちの形成



低炭素な交通システムのイメージ
(国土交通省「2040、道路の景色が変わる」)

歴史と未来が融合する魅力と
活力にあふれた清々しい
国際生活交流都市

— ポイント —

ウィズコロナ・ポストコロナにおける
風格ある複合市街地としての
さらなる魅力の向上



オープンスペースの活用

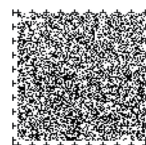
多様な主体の地域連携の
強化により、持続的に
発展していくまち

— ポイント —

まちの運営を担う
エリアマネジメント活動の
推進



にぎわい空間（イベント）



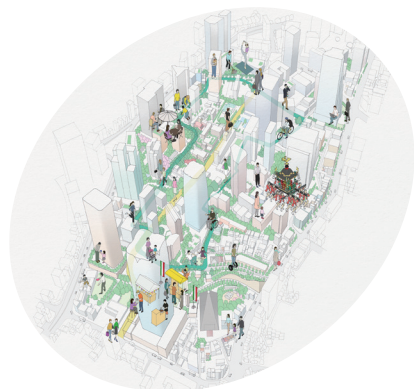
《目指すべきまちの姿》

温室効果ガスの排出実質
ゼロの達成に向けた人に
やさしい緑あふれるまち

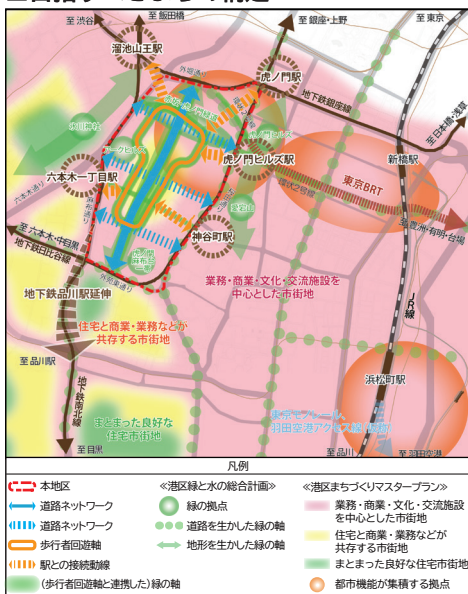
歴史と未来が融合する魅力と
活力にあふれた清々しい
国際生活交流都市

多様な主体の地域連携の
強化により、持続的に
発展していくまち

■将来像イメージ



■目指すべきまちの構造



《方針1》

土地利用・活用



『国際ビジネス交流拠点にふさわしい
快適で魅力ある複合市街地の形成』

- 取組方針1：地域の魅力を高める土地利用の誘導
- 取組方針2：開発事業などに併せた地区の課題解決
- 取組方針3：地域の魅力・価値向上に資する空間形成

《方針2》

住宅・生活環境・
防犯



『誰もがいきいきと安心して暮らせる、
質の高い生活環境の形成』

- 取組方針1：快適に住み続けられる生活の場の確保と暮らしやすい環境の整備
- 取組方針2：日常の安全・安心を確保する環境づくり

《方針3》

道路・交通



『歩行者中心のまちを実現する、
人にやさしい交通ネットワークの形成』

- 取組方針1：安全で快適な歩行空間や広場などの整備とネットワーク化
- 取組方針2：人にやさしい地区内交通環境の整備
- 取組方針3：交通結節点の利便性向上

《方針4》

緑・水



『都心にありながら豊富な緑に
囲まれた自然豊かな都市環境の形成』

- 取組方針1：都市の基盤となる緑のネットワークの形成
- 取組方針2：緑豊かなオープンスペースの創出
- 取組方針3：地域に愛され、親しまれる緑の整備・活用

《方針5》

防災



『災害に強く、災害時に都市機能の
維持・早期復旧ができるまちの形成』

- 取組方針1：災害に強いレジリエントなまちづくりの推進
- 取組方針2：地域が一体となった防災活動の推進

《方針6》

景観



『歴史と未来が調和した世界に誇れる
魅力的な街並みの形成』

- 取組方針1：地域の特色を生かした風格のある街並みの形成
- 取組方針2：歩いて楽しい個性と魅力ある通りや空間の創出
- 取組方針3：高層建築物の周辺景観との調和

《方針7》

脱炭素化



『温室効果ガスの排出実質ゼロの達成に向けた
持続可能なまちの形成』

- 取組方針1：先進技術の導入とエネルギーの面的管理・利用の促進
- 取組方針2：地球温暖化対策の推進
- 取組方針3：環境に配慮した交通環境の形成

《方針8》

国際化・観光・文化



『国際都市にふさわしいグローバルなまちの形成』

- 取組方針1：国際都市にふさわしい環境整備
- 取組方針2：地区内外の歴史・文化・芸術・観光資源などの活用によるまちの魅力向上
- 取組方針3：新たなにぎわいや活力のエリア全体への波及、シティプロモーションの強化

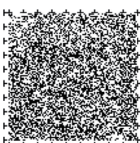
《方針9》

まちの運営



『まちの魅力を高める官民一体の
エリアマネジメント活動の推進』

- 取組方針1：まちづくりを進めるための協働体制の充実
- 取組方針2：地域コミュニティの発展に寄与するエリアマネジメント実施体制の構築

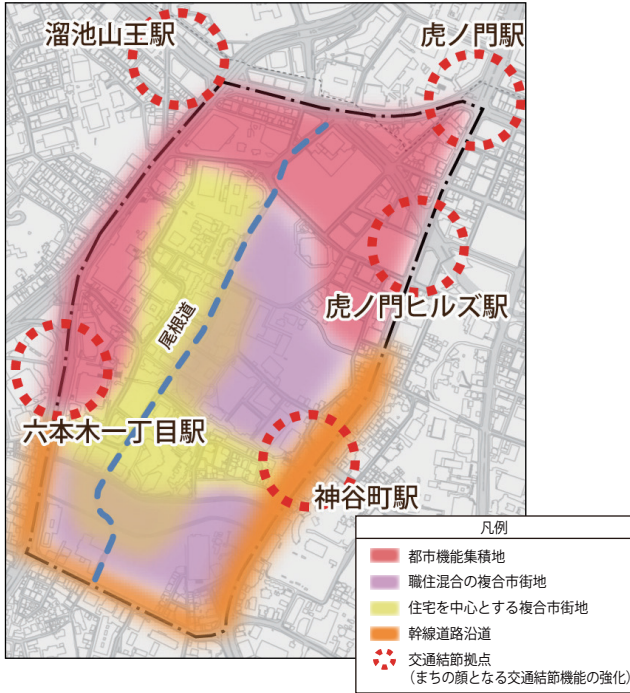


《主要な方針図》

方針1：土地利用・活用

エリアごとにきめ細かな方針を示すことで地域特性に応じた土地利用を誘導します。

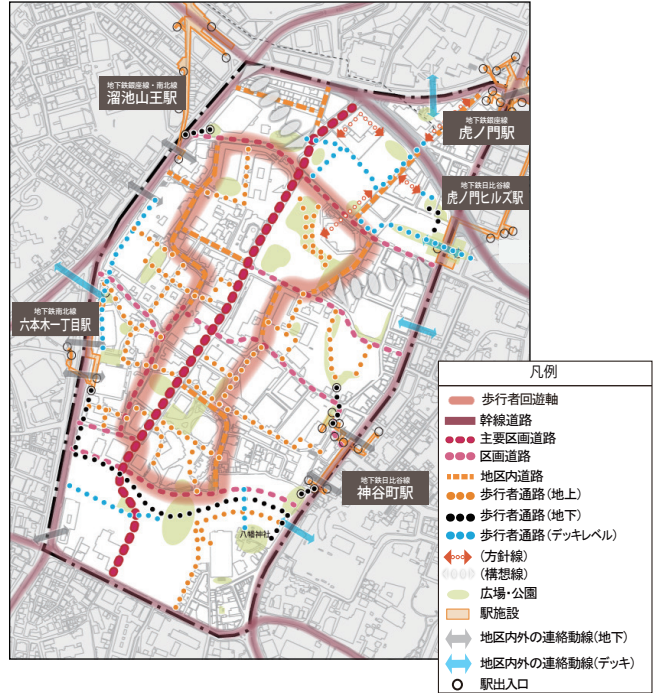
■方針図（土地利用・活用）



方針3：道路・交通（歩行者ネットワーク）

「歩行者回遊軸」を設定し、人びとの回遊を活性化させるとともに、地区内の広場などをつなぐことで地区のにぎわい・交流を促進します。

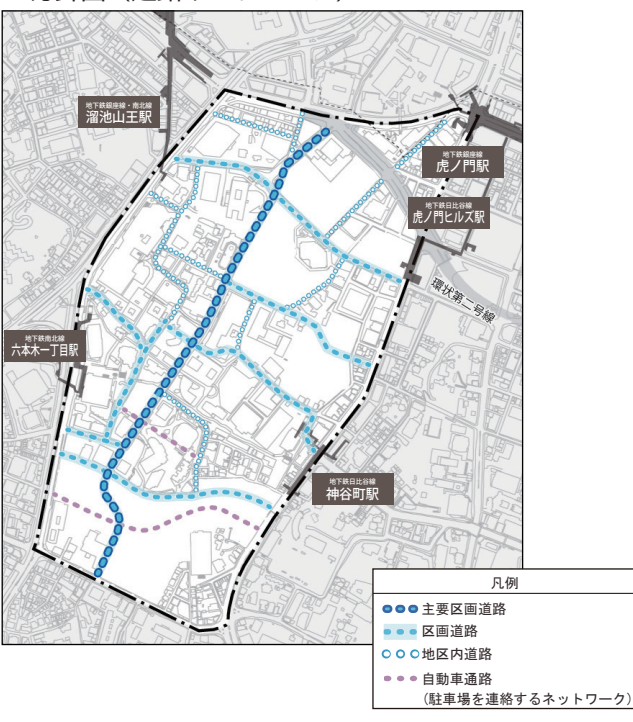
■方針図（歩行者ネットワーク）



方針3：道路・交通（道路ネットワーク）

誰もが安全で快適に利用できる地区内交通環境を形成するため、地区の東西南北をつなぐ道路ネットワークを整備します。

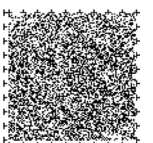
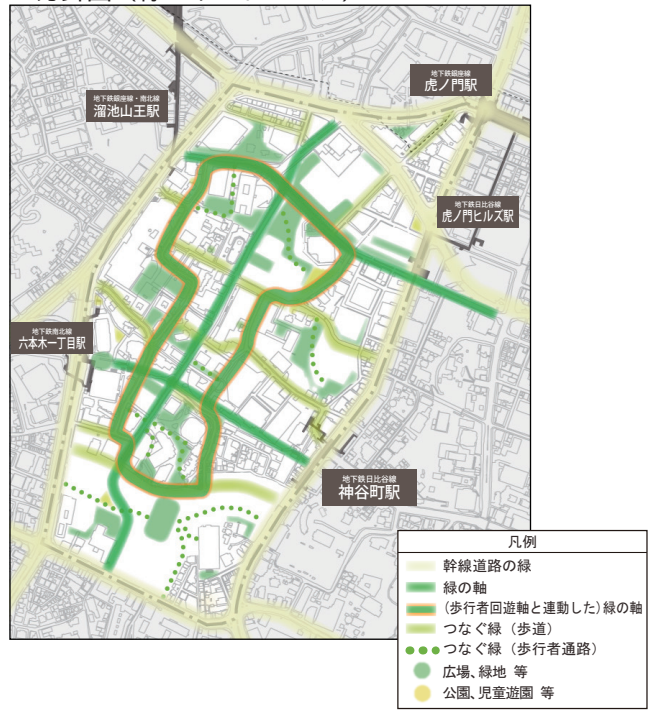
■方針図（道路ネットワーク）



方針4：緑・水（緑のネットワーク）

歩行者回遊軸と連動した「緑の軸」を連携・強化し、緑あふれるまちを創出します。

■方針図（緑のネットワーク）



第5章 エリア別まちづくりの方針（P76～85）

■エリア別方針の役割

エリアごとの課題の解消や地域特性を生かしたきめ細かなまちづくりを進めていくため、本地区を地形や主要な道路、一体的なまちづくりが進む区域などを考慮し、四つのエリアに区分し、各エリアの特徴（魅力・特性、課題）を整理した上で、まちづくりの方向性を示します。

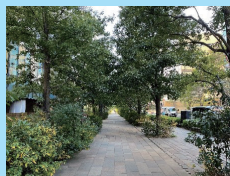
《各エリアの現況とまちづくりの方向性》

◇北エリア：複数駅と近接する国際ビジネス交流拠点の形成

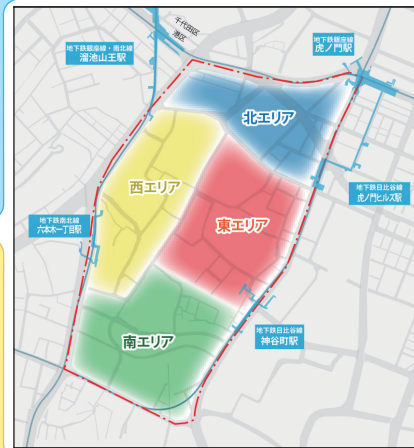
- 地域の特性を生かした国際ビジネス交流拠点としての都市機能の集積をさらに推進します。
- 国際水準の業務、医療、ビジネス発信、MICE、カンファレンスなどを誘導します。
- 周辺地域からのアクセスも含めた安全で快適で重層的な歩行者ネットワークを整備します。
- 駅周辺の都市機能の更新と併せて駅と直結する広場の整備やバリアフリー動線の強化を図ります。
- 開発などに併せて溜池山王駅周辺の自転車シェアリングポートを整備します。
- 尾根道及び赤坂・虎ノ門緑道では、緑豊かな歩道状空地などの整備を推進し、大規模な緑道空間を形成します。



虎ノ門ヒルズ駅



赤坂・虎ノ門緑道

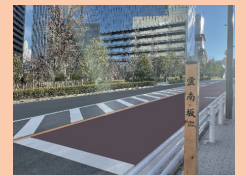


◇東エリア：緑豊かな職住近接の複合市街地の形成

- 地区の一体性に配慮しながら、職住近接の複合市街地を形成しつつ、尾根道沿いの住環境と国際的な商業・業務地の共存を図ります。
- 未整備の区画道路の整備を推進し、道路ネットワークの連続性を確保します。また、高低差のある地形に配慮した安全で快適な歩行者ネットワークを形成します。
- まちづくりの機会をとらえ、街区再編などによる地区内の道路整備を推進し、地区内交通ネットワークの強化を図るほか、開発などに併せて神谷町駅周辺に自転車シェアリングポートを整備します。
- 地区を東西に横断する歩行者通路は、質の高い緑豊かな緑道空間として保全・育成します。
- 歩行者回遊軸では、連続的な緑のネットワークを形成します。



緑豊かな緑道



豊南坂



泉ガーデン



桜坂

◇南エリア：多様な人びとが活発に活動する文化・交流拠点の形成

- 地区の一体性に配慮しながら、職住近接の複合市街地の形成を図ります。
- 多様なニーズに対応する居住・滞在機能や、国際的な教育・医療・生活支援・交流機能などの導入により、外国人にとっても暮らしやすい生活環境の整備を推進します。
- 歩行者ネットワークの整備などにより、自動車の円滑な通行を確保するとともに交通結節機能の強化を図ります。
- 歩行者回遊軸により、広場・オープンスペースなどをつなぎネットワーク化することにより、地区のにぎわい・交流を創出します。
- 寺社や斜面地の緑などを保全・活用しながら、一体的な緑化空間の整備を推進します。
- 歩行者回遊軸では、連続的な緑のネットワークを形成します。



アークヒルズ仙石山森タワー



麻布小学校

◇西エリア：文化施設などを生かした複合市街地の形成

- エリア西側では業務、商業、交流機能を中心とした複合市街地、エリア東側では国際性・歴史性・文化性豊かな緑あふれる複合市街地の形成を図ります。
- 未整備の区画道路の整備を推進し、まちづくりに併せて沿道の歩行者空間の整備を促進するとともに、高低差のある地形に配慮した安全で快適な歩行者ネットワークの形成を促進します。
- まちづくりの機会をとらえ、街区再編などによる地区内の道路整備を推進し、地区内交通ネットワークの強化を図ります。
- 地区を東西に横断する歩行者通路は、質の高い緑豊かな緑道空間として保全・育成します。
- 歩行者回遊軸では、連続的な緑のネットワークを形成します。

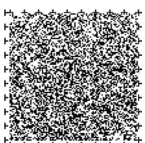
第6章 まちづくりの実現に向けて（P86～89）

■まちづくりの実現化の手法

地域の状況や目的に沿って、適切な手法を選択し、制度を活用しながらまちづくりを進めていくことが重要です。

■まちづくりガイドラインの運用

- ①社会状況の変化への柔軟な対応、新しい法制度などの効果的な活用
- ②まちづくりの進捗に併せたガイドラインの更新



刊行物発行番号 2022104-5011